

篠山市長 酒 井 隆 明 様

篠山市議会議長 林 茂

総合計画調査特別委員会 調査結果について（申し入れ）

第 2 次篠山市総合計画の中間時期において、前期基本計画の進捗状況並びに後期基本計画を作成しようとする市の基本的な考え方について「計画の方向性」という観点で調査を行いました。

調査の詳細な結果は、別添の調査シートのとおりです。

施策目標「活力ある産業を興し、まちの資源を生かすまち」の進捗に課題があります。また、計画全般において施策指標の達成に遅れのある項目がみられました。

今後の計画の方向性については、概ね妥当と判断するものの、本市の抱える重要課題解決に関する施策項目において明確な方向性や推進体制が確認できないものがありました。

今回の調査を終えて、今後、後期基本計画の決定に際し、特に重視いただきたい事項を下記のとおり申し入れます。

記

1. 本市の抱える重要課題を解決する計画にされたい。

前期基本計画において、V「活力ある産業を興し、まちの資源を生かすまち」中、「企業振興・雇用創出」や「農業振興」の点で進捗に遅れが見られる。

また、「定住促進・人口対策」「公共交通体系の構築」「活力ある産業振興」「幼少期からの子育て支援の充実」「効果的・効率的な行政運営」の取り組みについて、今後の方向性が明確でない項目があることが確認された。これらの取り組みについては、これまでからも本市の重要な課題であり、後期基本計画決定にあたっては十分な検討を行い、実効性のある計画にされたい。

2. まちづくりシンボル・プロジェクトについて、その推進体制を明確にされたい。

まちづくりシンボル・プロジェクトについては、基本構想に掲げる「人・自然・文化が織りなす食と農の都～『篠山の時代』をつくろう～」を実現するために、基本計画（各論）で示す分野別の施策から選び出し、横断的に取り組んでいくこととされている。

しかしながら、前期基本計画の5年間の進捗からは、個々の施策の連携が十分であるようには見受けられない。その要因の一つとして、主たる推進体制が不明確であることが挙げられる。予算編成や進捗状況の公開等、効果的な進行管理体制の構築を含め、プロジェクトの「見える化」を図っていくことで、「食と農の都」の理念も深まっていくものと考えられる。こうしたことから、行政、また民間活力も含めた推進体制を整え、計画に明示されたい。

3. 施策指標は、施策目標との整合性や指標値の妥当性ととも、進捗管理も踏まえた視点から設定されたい。

前期基本計画の進捗を踏まえ、施策指標においては、多くの項目が見直されている。よりよい指標とされることはよいことであると考える一方で、未達成のまま変更されることについては、継続性をもった進捗管理に支障を来すものである。後期基本計画で設定される施策指標は、施策目標との整合性や指標値の妥当性ととも、進捗管理も踏まえた視点から設定されたい。

4. 計画を効果的に進めるため、「PDCA」を重要視した行政経営をされたい。

調査において多くの委員より「PDCA」の重要性に関する意見が出された。

まず、教育分野への市民の声を反映する仕組みが必要である。

次に、費用対効果を高める行政運営のために検討中の公共施設等管理計画を総合計画に反映させていくことが重要である。

さらに、「施策事業評価」の施策事業評価表をより分かりやすく改善するとともに、積極的に情報公開していくことにより、参画と協働が進み、ひいては総合計画の推進が図られると考える。

上記の項目のみならず、計画全般において、常に点検（C）、改善（A）が行える横断的な仕組みを整え、計画を効果的に進める行政経営を目指されたい。

5. 委員会調査における各意見についても精査されたい。

各分科会や全体会調査等での意見についても精査を行い、必要な修正を行われたい。

※参考資料として、「総合計画調査特別委員会 報告書」を添付します。